

令和3年11月10日

企画調整局地方創生推進室

所管事務調査

「ポストコロナ社会の地方創生について」

- 1 「第2期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」令和2年度取組実績
 - (1) 第2期総合戦略のKPI達成状況 . . . 資料1
 - (2) 北九州市の社会動態の状況（H27～R2年） . . . 資料2
 - (3) 北九州市の月別社会動態の推移 . . . 資料3

- 2 第2期総合戦略に基づく令和3年度の主な取組 . . . 資料4

- 3 北九州SDGs登録制度 . . . 資料5

第2期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI達成状況

令和3年11月10日
企画調整局地方創生推進室

第2期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要（令和2年度～6年度）

戦略のポイント

- 社会動態(転入と転出の差)は改善傾向にあるが、依然として若い世代の転出が顕著であるため、「**女性と若者の定着により社会動態をプラスに**」という第1期の基本方針は堅持
- 「**SDGsを原動力に**地方創生の『成功モデル都市』を目指す」ことを基本方針に位置付け
- 働き手の減少や産業構造の変化等を踏まえ、新たに、「**産業の活性化や生産性向上という地域経済の視点**」、「**質の高い暮らしと快適なまちの実現に向けたまちづくりの視点**」を明示
- 人口・地域経済・まちづくりの課題に一体的・重点的に取り組み、好循環を生み出す社会を目指す

SDGsの推進

基本方針



具体的な施策

I しごとの創出

- ・市内企業への就職促進
- ・新たな働き手の確保
- ・地域経済活性化の推進

II 新しいひとの流れ

- ・定住・移住の促進
- ・観光・イベント等を通じた「関係・交流人口」の創出・拡大

III 女性活躍、若い世代の結婚・出産・子育て

- ・女性の就業促進
- ・子育てしやすいまち

IV 住みよいまちづくり

- ・都市ブランドの構築
- ・地域間連携
- ・コンパクトプラスネットワーク

基本目標Ⅰ「北九州市に魅力あるしごとをつくり、安心して働けるようにする」

数値目標	当初値	R2年度実績値	目標値（R6年度）
市内企業への新卒就職者数	4,106人 (R元年度)	<u>4,136人</u>	4,600人
市内新規雇用者数	累計(H27-R元)22,628人 単年度平均 4,526人	<u>5,530人</u>	累計30,000人
企業誘致による新規雇用創出数	累計(H26-R元)4,376人 単年度平均 729人	<u>751人</u>	累計4,000人

具体的な施策（抜粋）

若者の市内企業への就職促進

- ・市内大学との連携によるインターンシップの推進や市内企業と若者の出会いの場の創出
- ・早い段階からの職業観の醸成や将来の市内企業への就職に向けた取組の推進

中小企業の生産性向上・事業継承推進

- ・中小企業の経営力強化及び技術力・販売力の向上を図る
- ・DXを推進し、市内企業の生産性向上を推進

創業支援

- ・産・学・官・金連携のスタートアップ支援
- ・リノベーションまちづくりの推進による都市型新産業の創出

若者の雇用創出・拡大につながる企業誘致

- ・新しい働き方を推進し、研究開発分野等の本社機能等の移転を推進
- ・IT関連企業の地方拠点強化に向けた誘致

基本目標Ⅱ「北九州市への新しいひとの流れをつくる」

数値目標	当初値	R2年度実績値	目標値（R6年度）
移住希望者数（お試し居住参加者数）	56人 (R元年度)	<u>39人</u>	毎年 50人以上
外国人観光客数	55.6万人 (R元年次)	<u>6.0万人</u>	70万人
北九州空港利用者数	158万人 (R元年度)	<u>32万人</u>	200万人※1

※1 北九州市観光振興プラン更新時に新たな目標数値を設定する予定。

具体的な施策（抜粋）

定住・移住の促進

- ・メディアと協力して本市の魅力ある情報を首都圏等に積極的に発信するほか、本市への転入希望者を応援する仕組みづくりを推進
- ・新しいライフスタイルへのニーズに対応しながら、本市の「住みよさ」の情報発信や移住支援の取組を継続

「関係・交流人口」の創出・拡大

- ・テレワーク等により市内の仕事を複業・兼業する仕組みを構築
- ・本市の暮らしや食等を体験するワークショップを実施し、関係人口を拡大

観光客増に向けた取組

- ・大規模な国際会議やイベント、国内外クルーズ船の誘致等の推進により、ひとの流入やにぎわいを創出

北九州空港のさらなる路線誘致・集客

- ・北九州空港の利用者数の増加に向けた航空ネットワークの充実強化
- ・インバウンドをはじめとした市内の交流人口の増加や消費拡大・賑わい創出

基本目標Ⅲ「女性の活躍を推進し、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」

数値目標	当初値	R2年度実績値	目標値 (R6年度)
ダイバーシティ行動宣言等登録・届出企業	累計(H27-R元) 1,266社 ※1	累計1,390社	累計1,600社
合計特殊出生率 ※2	政令市1位 (R元年)	— ※3	政令市トップクラスを維持
「子育てしやすいまち」と感じる市民(子育て世代)の割合	88.6% (R元年度)	<u>89.2%</u>	90%以上

※1 制度変更・事業見直しによる積算項目の変更に伴い、戦略本文に記載しているR元年度数値と異なる。

※2 合計特殊出生率は、年度でなく年で算定 ※3 令和2年の合計特殊出生率は令和3年度中を目途に公表予定

具体的な施策(抜粋)

女性活躍施策の充実

- ・就職、キャリアアップ、子育てとの両立、創業などをワンストップで支援し、女性の就業環境づくりを推進

ダイバーシティ経営モデルの構築

- ・女性活躍、ワーク・ライフ・バランスに取り組み企業への支援や企業の働き方改革を後押し

結婚・妊娠・出産・子育て・教育までの一貫した支援

- ・子育て世代包括支援センターの活用、保育や地域の子育て支援の量の拡大・質の向上による待機児童対策の推進
- ・結婚を希望する若者へのきめ細やかなサポート
- ・子どもたちの確かな学力や体力、豊かな心を育む教育環境の整備

4

基本目標Ⅳ「時代に合った魅力的な住みよいまちをつくる」

数値目標	当初値	R2年度実績値	目標値 (R6年度)
「本市に住んでよかった、ずっと住み続けたい」と答えた市民の割合	82% (R元年度)	<u>84%</u>	90%以上
「本市への誇りや自信がある」と答えた市民の割合	54.1% (R元年度)	<u>55%</u>	80%以上

具体的な施策(抜粋)

シビックプライドの醸成

- ・本市の誇れる資源や文化継承の取組の推進により、市民の本市への誇りや愛着を育む
- ・地域課題解決に向けた人材の育成

文化芸術による創造都市・北九州の発信

- ・市内の文化的素材を活かした多彩な文化芸術事業の取組により、創造都市としての魅力を発信
- ・フィルム・コミッションの活動の推進

安全・安心なまちづくりと地域防災の充実

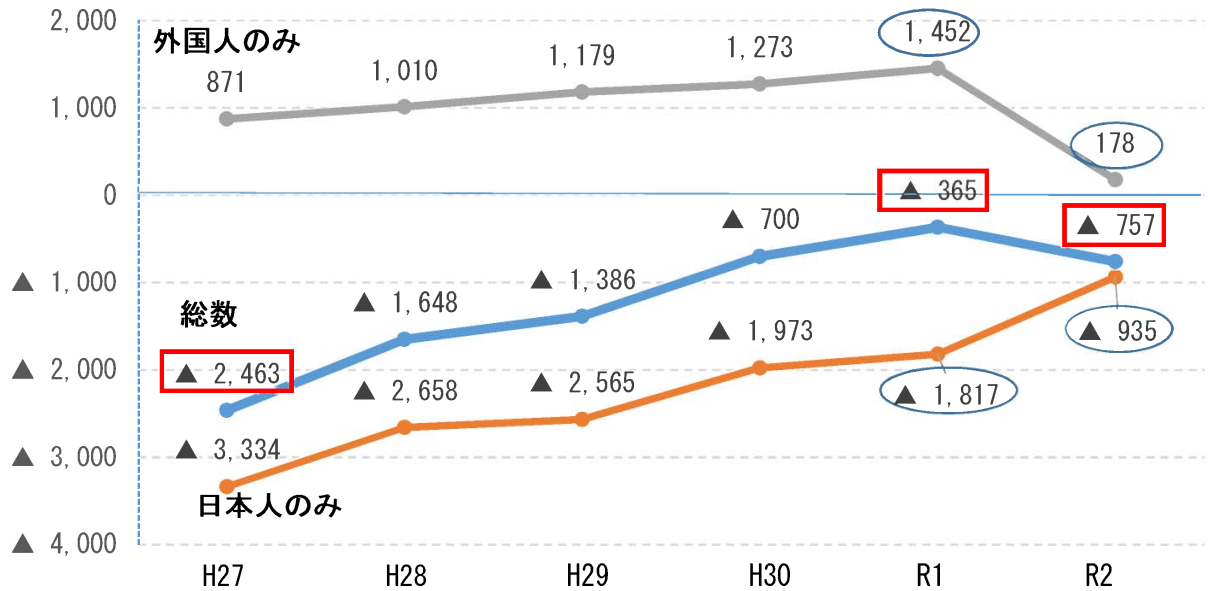
- ・本市のイメージアップを図るため、安全・安心に関する取組を市内外に発信

持続可能な地域商業拠点づくり

- ・まちなかでの新規出店や中小小売・サービス事業者の経営改善を推進
- ・商店街等が地域コミュニティの担い手として行う取組を支援

5

北九州市の社会動態の状況（H27年～R2年）



地域別の転出・転入（R1—R2比較・日本人のみ）

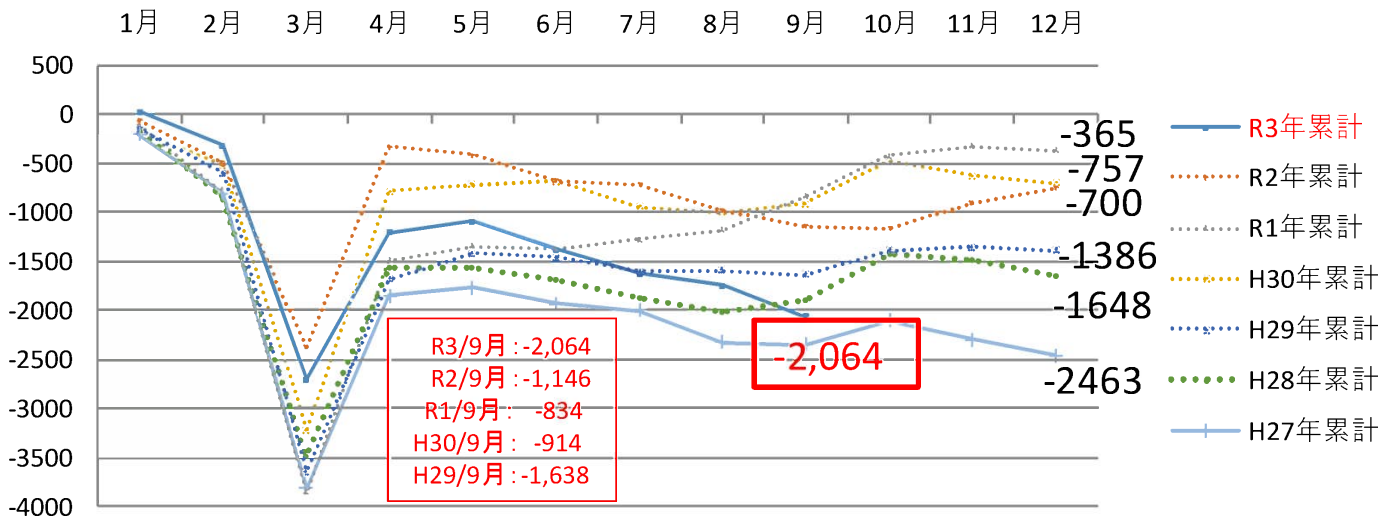
	R1		R2		R2 - R1	
	転入	転出	転入	転出	転入	転出
	社会動態		社会動態		社会動態	
全体	40,587	42,404	39,484	40,419	▲ 1,103	▲ 1,985
	▲ 1,817		▲ 935		882	
東京圏	2,798	4,059	2,839	3,718	41	▲ 341
	▲ 1,261		▲ 879		382	
福岡市	3,158	4,466	3,094	4,264	▲ 64	▲ 202
	▲ 1,308		▲ 1,170		138	
九州・山口 (福岡市を除く)	13,907	12,915	13,105	12,220	▲ 802	▲ 695
	992		885		▲ 107	

（出典：北九州市推計人口及び推計人口異動状況）

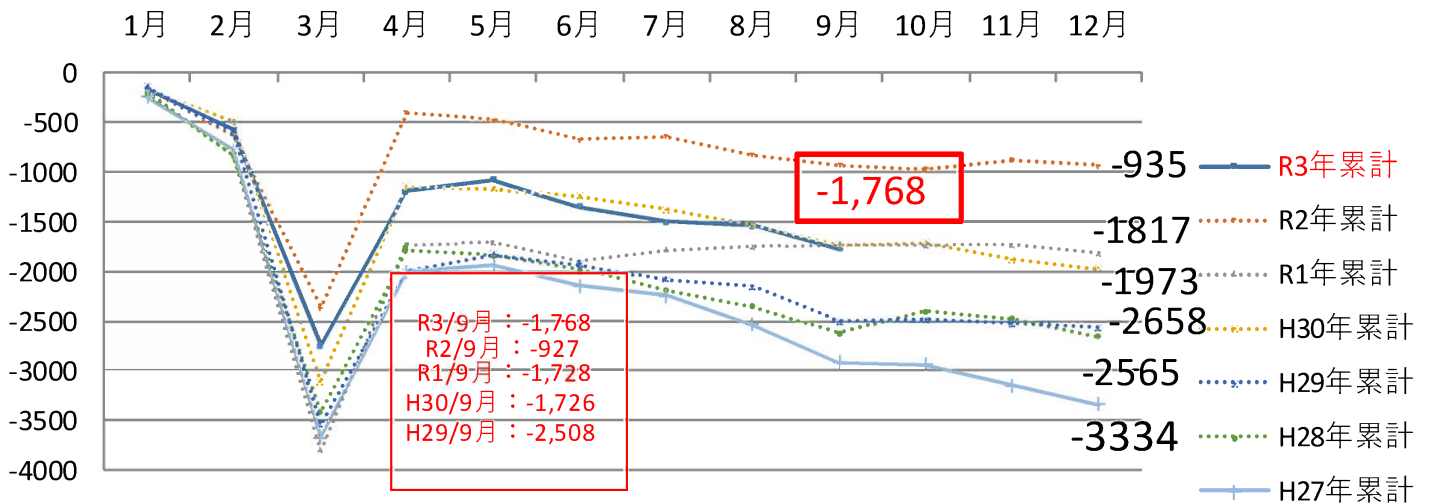
○R2年は、新型コロナの影響により、R1年と比べて、総数は392人の悪化（R1:▲365人⇒R2:▲757人）。
 内訳として、日本人は882人の改善、外国人は1,274人の悪化。
 ○R2年は、これまで転出超過が続く東京圏・福岡市への転出が抑制されている一方、転入超過であった九州・山口からの転入者が減少。全国的に移動が抑制されている。

資料3

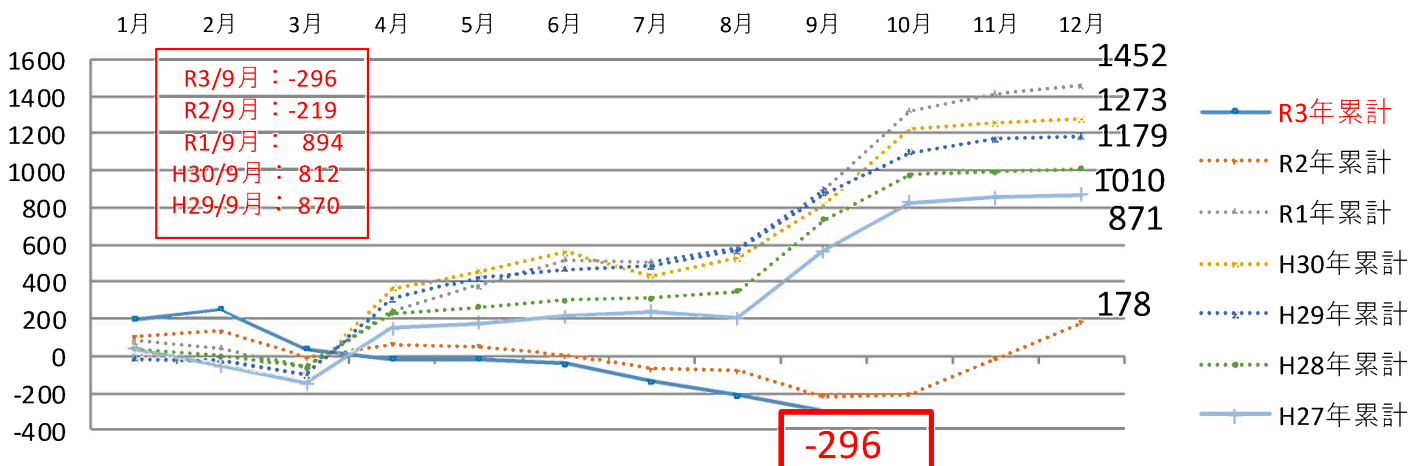
平成27年～令和3年 社会動態増減数【総計】 単位:人



平成27年～令和3年 社会動態増減数【日本人のみ】 単位:人



平成27年～令和3年 社会動態増減数【外国人のみ】 単位:人



出典:北九州市推計人口及び推計人口異動状況

第2期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略 に基づく令和3年度の主な取組

令和3年11月10日
企画調整局地方創生推進室

第2期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂

- 新型コロナウイルス感染症拡大によって、明らかになった課題・新しいトレンドを受け、首都圏から企業・人の流れを作り出し、**社会動態プラスに向けて戦略を強化**
- 基本方針に、新たに「**脱炭素社会の実現**」を加え、人口・地域経済・まちづくり・環境の課題に一体的・重点的に取り組み、SDGsを原動力とした持続可能な社会を目指す
- **デジタルトランスフォーメーション(DX)推進による質の高い社会の構築**を目指すことを、横断的な視点として位置付け
(令和3年4月1日改訂)

SDGsの推進

基本方針

【人口】
女性と若者の定着により
社会動態をプラスに

【地域経済】

産業の活性化と
生産性の向上

好循環

質の高い暮らしと
快適なまちの実現

【まちづくり】

脱炭素社会の実現

【環境】

具体的な施策

I しごとの創出

II 新しいひとの流れ

III 女性活躍、若い世代
の結婚・出産・子育て

IV 住みよいまちづくり

横断的視点

国の施策対応(特区・税制など)、地方創生推進のためのデジタル技術活用

ポストコロナの地方創生の方向性

北九州市の強み・特徴

みんなに“ちょうどいい”
「住みよいまち」
(都市の利便性と豊かな自然環境)

SDGs 未来都市としての
都市ブランド

ピンチをチャンスに
変えてきた経験
(公害、安全・安心等)



新型コロナウイルス感染拡大で生まれたトレンド

テレワーク、
ワーケーションなどの
柔軟な働き方

若い世代を中心とした
地方移住への関心

IT企業の地方への
サテライトオフィス
進出



東京一極集中から地方分散へ



企業や個人の地方分散の受け皿となることで、
「社会動態プラス」につなげ、地域を活性化する。

2

企業や人の新しい流れの創出

IT企業の誘致

H26~R2年度末まで
70社の進出及び増設

- IT企業の入居を想定した
「次世代スマートビル建設促進補助金」
「オフィスリノベーション補助金」
- 新しい生活様式に対応するオフィス改修費用を
補助する 「ニューノーマルオフィス助成制度」
- 地方進出を検討する企業に新たな働き方を体感
してもらおう 「お試しサテライトオフィス誘致促進事業」



個人の移住促進

- オンライン移住相談の実施
- 「しごと」と「暮らし」の
一体的な情報提供体制の強化
- 地方でテレワークやワーケーションを体験したい
若者向けに「お試し居住ライト」を実施



● Tanga Table



● 粹邑 HIRAODAI

3

地方創生のための新たなブランディング

広報の専門人材として、**クリエイティブディレクター**を民間から採用し、戦略的広報を推進（政令市で2例目）



【新たなブランディングの目的】

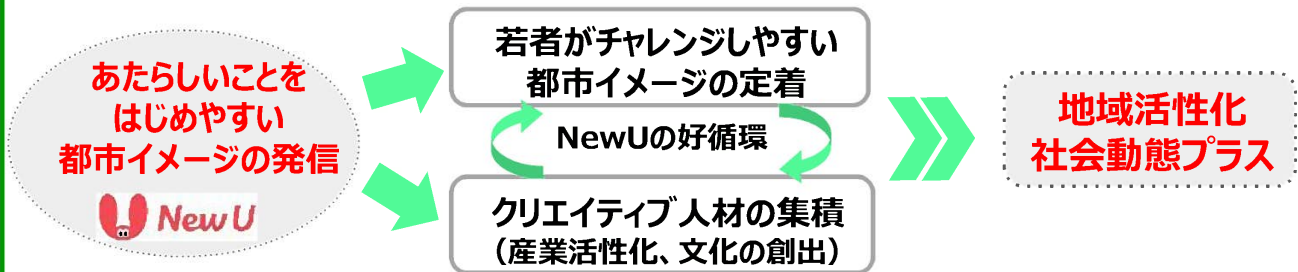
若い世代が住みたいと思うまちの実現に向けて、

- ①ターゲットを**若い世代**に明確化（Z世代、ミレニアル世代）
- ②スローガン・ロゴマークを活用することで、**各部署の事業を集約**し、効果的に発信



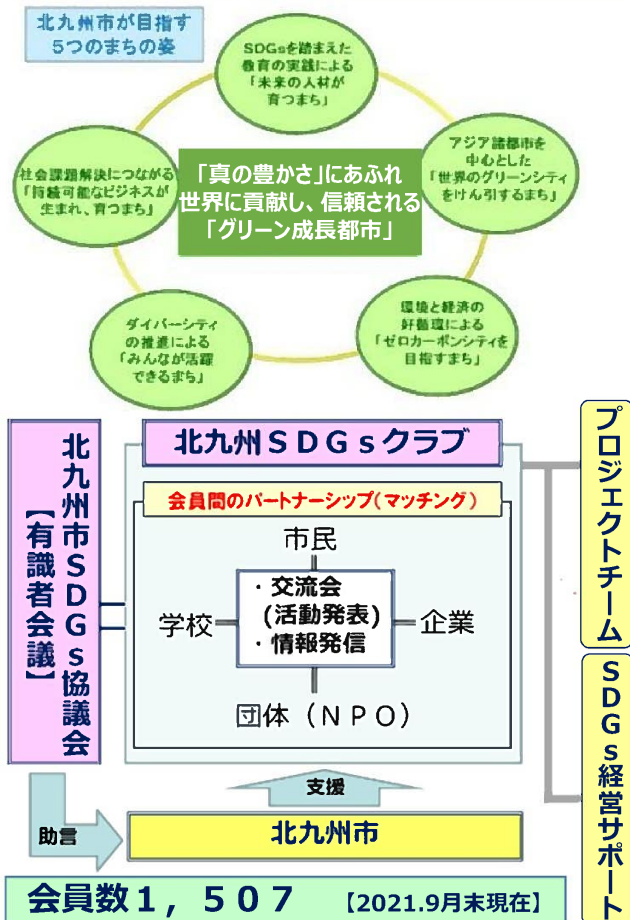
あたらしいことを、はじめやすい都市。
福岡県北九州市。

【ブランディングにより目指す姿】



4

オール北九州でのSDGs達成に向けた取組



8月創設！北九州SDGs登録制度

ESG投資・脱炭素の要請が高まる中で、地元企業へSDGs経営の普及



5

「北九州SDGs登録制度」等の取組について

1 「北九州SDGs登録制度」の第1次登録状況

(1) 制度の概要

SDGsの達成に寄与する市内事業者の取組みを、SDGsの17のゴールや第2期「北九州市SDGs未来都市計画」と関連づける形で「見える化」し、SDGs経営を推進することで企業の競争力を高め、地域活性化を図るもの。

(2) 第1次登録の結果

① 登録数（申請期間：令和3年9月1日～30日 登録日：同年11月1日）

219事業者

【業種別内訳】

サービス	建設	製造	卸売・小売	金融・保険	その他
50	44	36	22	19	48

② 第2次以降の登録について

10月以降も継続して申請を受け付け、3カ月毎に締め切り、都度登録を行う。

【例】第2次：[受付]令和3年10月～12月 [登録]令和4年2月

第3次：[受付]令和4年1月～3月 [登録]令和4年5月 以降同様

(3) 第1次登録証交付式の開催

対象事業者に登録証を交付し、当該制度をPRするため、交付式を開催する。

[日時] 令和3年11月16日（火） 13時半から2時間程度

[会場] 北九州国際会議場 メインホール

2 本市のSDGsマークのデザイン決定について

(1) 作成目的

「北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs」のレガシーを引き継ぎながらSDGsの実現を目指す本市のメッセージを視覚化し、SDGsの達成に向けた機運を高め、市と市民・企業の一体的な取組みを後押しする。

(2) 活用方法

本市と連携して取り組む多様な主体（※北九州SDGsクラブ会員、北九州SDGs登録事業者など）が利用できるツールとして活用する。

◆第1弾として、北九州SDGs登録事業者に交付する登録証のデザインに活用する。

◆12月を目途に使用ルールを策定・PRし、民間での幅広い活用につなげる。

